

図書館利用が難しい方への対策は



三友美恵子



教育長

貸出しの場を広げ
利用者拡大へ

質問 インターネットの普及等により社会が大きく変化していくなか、これからの図書館の役割とは。

答弁 教育長 今までの役割に加えて、社会全体のデジタル化を踏まえ、インターネット等の電子情報へのアクセスの提供や、電子情報の発信・保存もこれからの図書館が担う大きな役割である。

質問 オンライン予約の現状は。

答弁 教育長 平成15年よりオンライン予約を開始している。コロナの影響による休館時には電話やオンラインで予約した方に限った貸出しを行い、図書館利用者の利便性の向上につながっている。

質問 図書館から遠い地区に住む高齢者の利用が少ないが対策はあるか。

答弁 教育長 高齢化社会に対応した「移動図書館」「デリバリーサービス」など、

実際に図書館に足を運ばなくても本が借りられる方法を考えていかなければならない。また、現在子育て支援センターに本を持つていき、貸出しを行っていき。今後はふれあいの居場所などにも貸出しの場を広げていき、利用者の拡大につなげていきたい。

子供の読書活動推進について

質問 学校図書館の体制は。

答弁 教育長 学校図書館は毎日終日開館している。学校司書は小中学校全校に一人ずつ、週3日間配置し、読書環境の整備を行ったり、授業における図書資料の活用について教員の相談に乗っている。また、国が示す学校図書館に整備すべき蔵書数については、町内全ての小中学校でクリアしている。今後も図書整備のさらなる充実を図っていく。

質問 子供の読書活動推進に向けた取組は。

答弁 教育長 子供たちが自主的に読書に親しみ、学ぶ楽しさや知る喜びを味わえる環境づくりを積極的に進め、数多くの取組を実施している。その成果として、玉村中学校が「子ども読書活動優秀実践校」として、文部科学大臣表彰を受けた。今後も子供たちの読書活動の推進を図っていく。



こんな質問もしています

令和4年度施政方針について

副反応について 保護者に周知を



堀越真由子



町長

様々な情報を検証し
対応したい

質問 町民の中でコロナワクチン接種後に重篤な副反応が出たという報告はあるか。

答弁 町長 副反応疑い報告の中で、お一人の方が亡くなられた報告があったが、ワクチン接種時には特に気になる症状はなく、国では、ワクチンとの因果関係が不明な事例とされている。

質問 未成年へのワクチン接種後に心筋炎等の副反応が出ていることを、町は把握しているか。

答弁 町長 厚生労働省の報告によると、ごくまれに心筋炎・心膜炎を発症した事例があり、特に10代、20代の男性の2回目接種後に多い傾向があるとのことである。

質問 5歳から11歳へのワクチン接種が始まる。未成年、特に10歳未満の子供は感染しても重篤な症状が出たり、亡くなることはほぼない。ワクチン接種後に重い副反応が出る

ことで保護者から不安の声が上がっている。5歳から11歳への接種は努力義務が適用されていないことや、リスクについてもしっかりと周知し、保護者に接種するかしないかを選択していただく必要があると考える。町は副反応について保護者にしっかりと伝えていくか。

答弁 町長 5歳から11歳の子供の接種券を発送した際に、厚生労働省からの効果や安全性、副反応等に関するお知らせも同封している。また、町ホームページや広報でも厚生労働省のサイトへリンクするよう情報発信している。

質問 副反応についての周知が不十分であると考える。子供に重篤な副反応が出たときの責任の所在は。

答弁 健康福祉課長 接種はあくまで任意であり、ご本人とご家族で判断していただくため、責任は本人にある。万が一、健康被害が生じた場合

には国の救済制度がある。

質問 健康な子供へのワクチン接種について、現時点では合理性を見いだせないと言つ意見もある。町の考えはどうか。

答弁 町長 正しい情報提供を担保することが、任意性を担保することだと考えている。様々な情報を検証し、対応していきたい。



全国有志医師の会パンフレット (数値は厚生労働省発表値)

こんな質問もしています
・学校でのSDGsへの取り組みについて